

目次

文法編

第13講	漢文(3)	62
第12講	漢文(2)	57
第11講	漢文(1)	52
第10講	敬語(2)	47
第9講	敬語(1)	42
第8講	識別(2)	37
第7講	識別(1)	32
第6講	助詞(2)・副詞の呼応	27
第5講	助詞(1)	22
第4講	助動詞(3)	17
第3講	助動詞(2)	12
第2講	助動詞(1)	7
第1講	動詞・形容詞・形容動詞	2

文章テーマ編

第14講	説話(1)	67
第15講	説話(2)	71
第16講	物語(1)	75
第17講	物語(2)	79
第18講	日記・紀行(1)	83
第19講	日記・紀行(2)	87
第20講	随筆(1)	91
第21講	随筆(2)	95
第22講	評論	99
第23講	和歌	103
第24講	漢文・漢詩	107
共通テスト対策編		111
補講 文学史		126
付録―文語文法要覧		130

共通テスト対策 漢文(1)

次の「文章Ⅰ」は、堂谿どうけいという地方の官吏が、韓かんの昭侯しょうこうに謁見した時の話を記したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で返り点を送り仮名を省いたところがある。)

【文章Ⅰ】

堂谿公謂昭侯曰、「今有千金之玉卮、通而无当、可以盛水乎。」昭侯曰、「不可。」有瓦器而不漏、可以盛酒乎。」昭侯曰、「可。」对曰、「夫瓦器至贱也、不可以盛酒。虽有乎千金之玉卮至贵、而无当、漏不可乘水、则人孰注漿哉。今为无当之玉卮也。虽有圣智、莫尽人之主、而漏其羣臣之語、是猶

其術、為其漏也。」昭侯曰、「然。」昭侯聞堂谿公之言、自此之後、欲發天下之大事、未嘗不独寢。恐夢言而使人知其謀也。

(韓非子)

(注) 玉卮ぎよく 玉杯。

漿じやう 飲み物。ここでは「酒」や「水」を言う。

羣臣ぐんしん 「群臣」に同じ。

莫ま 其術しじゆつ 其の才能と手腕を尽くすことができないのは。

夢言むごん 寝言。

問一 波線部(1)「為」・(2)「自」の読み方として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。

(1) 「為」

- ① なす
- ② つくる
- ③ ため
- ④ たる
- ⑤ なる

(2) 「自」

- ① みづから
- ② おのづから
- ③ また
- ④ より
- ⑤ もって

問二 二重傍線部ア「夫」・イ「猶」の本文における意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。

ア 「夫」

- ① とは言うものの
- ② いつもどおり
- ③ あの
- ④ ところで
- ⑤ そもそも

イ 「猶」

- ① ちょうどこのようである
- ② きつとくだろう
- ③ 依然としてこのままである
- ④ 今にもくしそうである
- ⑤ 必ずくししなければならぬ

問三 傍線部A「人 孰 注レ漿 哉」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① だれか飲み物を注いでくださいませんか。
- ② だれが飲み物を気にするでしょうか、いえ、だれも気にしません。
- ③ だれが飲み物を注ぐというのでしょうか、いえ、だれも注ぎません。
- ④ だれかがきつと飲み物を注いでくれるでしょう。
- ⑤ あなたの他にだれが飲み物を注いでくださるのでしょうか、いえ、だれも注ぎません。

問四 傍線部B「恐 夢 言 而 使 人 知 其 謀 也」の返り点の付け方

と書き下し文との組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 恐_レ夢 言_レ而 使_レ人 知_レ其 謀_一也。
- ② 夢言を恐れて人に其の謀_一を知らしむるなり。
- ③ 恐_レ夢 言_レ而 使_レ人 知_レ其 謀_一也。
- ④ 夢言を恐れて人を使ひて其の謀を知るなり。
- ⑤ 恐_レ夢 言_レ而 使_レ人 知_レ其 謀_一也。

夢言して人の知をして其の謀を使ふを恐るればなり。

問五 授業で【文章Ⅰ】を学んだ佐藤さんのクラスは、「玉卮」の比喻について調べてポスター発表にまとめることになった。佐藤さんの班は、『文選』の「三都賦序」から「玉卮」の比喻の一文を見つけ、調べたことを【文章Ⅱ】としてまとめた。これを読んで、後のi〜iiiの問いに答えよ。

「三都賦序」の〈玉卮〉の比喻について

玉卮モ 無ケレバ 当、
……玉の盃はいも底がなければ、

雖モ 宝ナリトズ 非レ 用。
……宝だと言ったところで役には立たない。

侈シ 言ゲンモ 無レ 驗シ、
……立派な言葉も裏づけがなければ、

雖モ 麗ナリトズ 非レ 經。
……いくら美しくても正しいとは言えない。



玉卮(玉杯)…美しい杯のこと。

「三都賦」は晋の詩人である左思(『左太冲二五〇?〜三〇五?』が十年もの歳月を費やして完成させた作品で、三国時代の蜀・呉・魏の首都を調べ、それぞれの特徴を「賦」という詩の様式で詠じたものです。「賦」とは本来、事物をそのまま述べあらわすものでしたが、当時の詩人たちは「賦」に美麗な表現の限りを尽くし、その土地にありもしないものを吟じていました。これを憂えた左思は、「賦」本来の形に立ち返って「三都賦」を作りました。その時の決意を述べたのが「三都賦序」です。右の詩を見れば左思の思いがどれほど深いものかは明らかでしょう。

この比喻は【文章Ⅰ】とは異なる対象を扱っていますが、本質的には同じ意味で用いられています。

「三都賦」は評判を呼び、人々が争って転写したために洛陽の紙の値段が高くなったと言われています。

コラム

「玉卮」
恋心がわからない男?

〈玉卮〉の比喻は、いろいろな対象に用いられています。【文章Ⅰ】では、臣下からの情報を信じない君主、「三都賦序」では、裏付けのない立派な言葉が〈玉卮〉の比喻の対象となっています。

この比喻は、日本にも古くから伝わっていたようです。『徒然草』第三段に「よろづにいみじくとも、色好まざらむ男は、いとさうさうしく、玉の卮みかづきの当なき心地ぞすべき」という一文がありますが、この文での「玉の卮の当なき」とは、万事にすぐれてはいるが恋心がわからない男への揶揄です。【文章Ⅰ】や「三都賦序」が教訓めいているのと比べると随分違いますね。筆者の吉田兼好よしだけんこうの感性がうかがわれる独特の表現です。

i 【文章Ⅱ】からわかることとして正しいものを、次の①～⑥のうちからすべて選べ。

① 「賦」とは、事物をありのままに描くことに重きを置く「詩」の形式の一つである。

② 「賦」では、三国時代より前に虚飾の多い作品が乱立した。

③ 日本人は漢籍に馴染みがあったが、吉田兼好は「三都賦」に影響を受けることはなかった。

④ 当時の日本では、「三都賦」は、晋での流行に敏感な宮廷の人々に読まれた作品であった。

⑤ 「三都賦」は、三国の風土について調べ、その土地独特の情景を忠実に描写している。

⑥ 「三都賦」の影響を受け、左思より後の詩人たちは、こぞって左思の作風に立ち戻った。

ii 【文章Ⅱ】の□で囲まれたコラムの文中に一箇所誤った箇所がある。その誤った箇所を次のA群の①～③の中から一つ選び、正しく改めたものを後のB群の①～⑥の中から一つ選べ。

A群

① 臣下からの情報を信じない君主

② 裏付けのない立派な言葉

③ 万事にすぐれてはいるが恋心がわからない男

B群

① どんなに有能な臣下がいても気づかない君主

② 臣下の発案を漏らしてしまう君主

③ 聞き心地の良い口先だけの美辞麗句

④ 何の効用も見られない賢者の言葉

⑤ あらゆる能力に秀でてはいるが常識に乏しい男

⑥ 細々したことには気がつくが大局的な視点に欠ける男

iii 傍線部C「この比喩は【文章Ⅰ】とは異なる対象を扱っていますが、本質的には同じ意味で用いられています」とあるが、このことを踏まえたとき、〈玉卮〉に関する比喩の説明として最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

① 「玉卮」は、見栄えはするが不要な機能をもつものの喩えとして用いられている。

② 「玉卮」は、見かけよりも本来の機能に優れたものの喩えとして用いられている。

③ 「玉卮」は、外見はすばらしいが実用には耐えられないものの喩えとして用いられている。

④ 「無当」とは、機能面に多少の欠点は見られるが、致命的な問題とはならないことを意味している。

⑤ 「無当」とは、そのもの本来の機能に欠けることであり、致命的な問題を生じることの意味している。

⑥ 「無当」とは、そのもの本来の機能が失われても、見かけ上はまったく問題ないということの意味している。